

議事録

会議名:日本気象学会北海道支部 平成 27 年度 第 1 回理事会

開催日:平成 27 年 5 月 19 日(火)

会 場:札幌管区气象台 中会議室

出席者:佐々木 喜一(支部長・札幌管区气象台) 藤吉康志(常任理事・北大低温研)、
 室井ちあし(理事・札幌管区气象台) 松岡直基(会計監査・日本気象協会)
 稲津 将(幹事長・北海道大学) 渡部正人(幹事・札幌管区气象台)
 佐藤友徳(幹事・北海道大学) 久保田敬二(幹事・日本気象協会)
 吉森正和(幹事・北海道大学) 清野祐子(幹事・札幌管区气象台)

報 告

1. 平成 27 年度日本気象学会北海道支部 役員紹介

- 新任役員も含め、各自自己紹介、役員名簿の確認を行った。

役職	氏名	所属
支部長	佐々木 喜一(ささききいち)	札幌管区气象台
常任理事	藤吉 康志(ふじよしやすし)	北海道大学低温科学研究所
理事	室井 ちあし(むろいちあし)	札幌管区气象台
会計監査	松岡 直基(まつおかなおき)	(一財)日本気象協会北海道支社
幹事長	稲津 将(いなつまさる)	北海道大学大学院理学研究院
幹事	渡部 正人(わたべまさと)	札幌管区气象台
幹事	佐藤 友徳(さととものり)	北海道大学大学院地球環境科学研究院
幹事	久保田 敬二(くぼたけいじ)	(一財)日本気象協会北海道支社
幹事	吉森 正和(よしもりまさかず)	北海道大学大学院地球環境科学研究院
幹事	清野 祐子(せいのゆうこ)	札幌管区气象台
全国理事	長谷部 文雄(はせべふみお)	北海道大学大学院地球環境科学研究院

2. 平成 27 年度支部役員業務分担について(稲津幹事長)

- 理事に関しては現状の役割をそれぞれ担当する。
- 幹事の役割分担については、幹事会で以下のように決定した。

分担項目	担当幹事
支部研究発表会(第1回)	佐藤 友徳(北大)
支部研究発表会(第2回)	渡部 正人(气象台)
細氷編集	吉森 正和(北大)
企画窓口(気象講演会、気象講座など)	久保田 敬二(気象協会)
事務局・会計	清野 祐子(气象台)

- 稲津幹事長は全国大会に関する業務を今後担当する。
- 3年前の業務外注化以後、様子を見ていたが、やはり分担はあったほうがいいので、外注部分以外のところを分担した。

3. 平成 26 年度北海道支部収支計算書報告(報告者:清野幹事)

1) 収入の部

- 預金利息に差異(405 円)があった以外は、当初の予算通りの収入となった。
- 収入合計は 769,001 円である。

2) 支出の部

- 気象講演会の経費として 124,000 円を見込んでいたが、後援という形で開催したため、旅費交通費の 9,080 円しか使用しなかった。
- 気象講座の経費として 135,000 円を計上していたが、昨年の気象台サイエンスカフェのテーマが「地震」だったため協賛せず支出はなかった。
- 機関紙「細氷」の刊行経費は予算段階では計上していなかったが、ホームページに掲載するための費用 42,480 円を新たに計上した。
- 管理費の支出としては総会・理事会・幹事会経費として 120,000 円を計上するも、実際の支出は 46,653 円にとどまる。
- 事務費はほぼ予定通り。役員選挙費は 73,000 円を予算計上し、支出は 70,472 円とほぼ予算どおり。ただし消耗品として投票箱(29,700 円)を購入した。広報・印刷費が安価に済んだため、その分で購入した。
- ホームページ運営費は、ほぼ予算通りだったが、過去の細氷を閲覧しやすいように HTML でインデックスを作成し PDF を分割掲載する佐表を一昨年より行っている。事業費の支出が少なく余剰予算があったので、この分を細氷電子化作業に使用した。(247,800 円)
- 活動経費の収支としては 65,392 円を次年度に繰り越した。
- (意見)細氷の電子化が終了したことを受け、全国の会員に向けて告知する事になった。

4. 平成 26 年度日本気象学会北海道支部会計監査報告(報告者:松岡会計監査)

- 4月8日気象台において現金、関係書類を監査し、適正に執行されていることを確認したので報告する。
- (意見)夏季大学の補助金 100,000 円を受けているが、予算書上はどれに該当するのかかわからず、使用していないように見える。本部などでどのように受け取られるか気になる。
- (回答)今年度の予算においては、夏季大学補助金を支部活動強化基金補助金に変えて対応する(稲津幹事長、詳細は後述)

議 事

1. 平成 27 年度支部事業計画案について(報告者:稲津幹事長)

- 支部総会は 6 月 22 日(月)13:00~、北大百年記念会館で開催する(決定)
- 研究発表会(第 1 回)は支部総会に引き続いて行う(決定)
- 第 2 回の研究発表会は 12 月 15 日(火)~16 日(水)の両日、札幌管区気象台大会議室で行う(札幌管区気象研究会と合同で開催する:予定)
- 16 日の午前を支部研究発表会に充てる予定で、演題は 5 題程度を想定している。
- 気象講座(一般向けの普及啓発活動)はサイエンスカフェとして開催する予定で、札幌管区気象台と共催の予定。
- 日時は 9 月 6 日(日)14:00~15:30、会場は紀伊國屋書店札幌本店 1 階インナーガーデンを使用。
- テーマは「記録的豪雨から一年~大雨から身を守る」となる予定。
- 気象講演会(準専門家向け)は行政関係者を集めたりすることを予定しているが、気象台等で行う防災講演会などが予定されていれば、それに充たしたい。
- 防災講演会は根室市で予算をとってやるので相乗りは難しそうだが、他の企画でも構わないので、相乗りできそうな企画があればやる。
- 大学などで行うアウトリーチ活動等もこれに該当すると判断される。
- 細氷 61 号は引き続きオンラインで発行する。資料は随時吉森幹事が収取り順次掲載。最終的にノンプル付を行う。
- 理事会は本日を含めて 2 回開催する予定。次回理事会は 12 月 16 日(水)13:00 から、札幌管区気象台注会議室で行う。
- (質問)サイエンスカフェの講師は気象台から複数出すことになるのか?
- (回答)基本的に講師は気象台職員、もしくは札幌市職員から出すかどうか検討中。ファシリテーターは気象予報士の菅井氏が候補だが、今後の交渉次第となる。
- 気象学会としては講師の謝金などを負担することで応援したい。
- 特に異論もないので、この案を支部総会に上程する事で承認。

2. 平成 27 年度日本気象学会北海道支部収支予算案について(清野幹事)

1) 収入見込みについて

- 会員数の減少が懸念されたが、昨年同様 566,000 円が交付された。
- 今期は夏季大学補助金を申請せず、支部活動強化基金補助金として 100,000 円を申請する。ただしこの補助金は使用しなかった場合は本部に変換しなくてはならない。
- 繰り越しも含め、収入総額は 731,492 円を予定。

2) 支出見込みについて

- 気象講演会経費として 131,000 円、気象講座経費として 152,000 円を計上。
- 細氷刊行経費は昨年度実績に基づき 50,000 円を計上。
- 総会・理事会・幹事会経費は、昨年切手代などの通信費が計上漏れしていたため、20,000 円を増額して計上した。
- 事務費は昨年と同額の 121,000 円、役員選挙費は計上無し。
- ホームページ運営費は 132,000 円を計上。昨年のみ必要だった初期費用が今期は不要なため減額している。

細氷61号 2015 第1回支部理事会報告

- 支出総額は729,000円、予備費は2,492円を予定。
- (質問)強化基金についての使途制限は？
- (回答)サイエンスカフェの経費として計上している。他支部と比較してサイエンスカフェの企画費としてはやや多めの予算となっているが、ファシリテーターの謝金等に使用したいという事で交付を受けている。
- 他に異論もないので、当該予算案を支部総会に上程することで承認。

3. 細氷61号目次案について(吉森幹事)

- 支部長挨拶、研究発表会要旨、気象講座・講演会報告、業務紹介、支部総会、理事会報告、役員一覧、規約、各種書式とほぼ昨年同様の内容となる。
- 講座・講演会報告は実施者が担当、気象業務紹介は気象台職員に依頼する。
- (質問)順次原稿を収集し、掲載していくが、最終的な完成はいつになるのか？
- (回答)年度末に通してノンプルをつけて完成となる。最後の原稿は講座報告か講演会報告になりそうだが、今年度は例年より少し早く原稿が集まる予定。
- ページ数は減少傾向だったが、ここ2~3年で盛り返している。内容も充実してきているので、後はアクセスを増やすことを考えたい。
- (意見)原稿を書く際に書籍などから引用する場合、年度末の日付を基準にするなどのルールがあってもいいのではないかな？
- (回答)年度末の日程を基準にするという考え方でよい。
- 支部長挨拶は昨年の例では4月にアップしているので、急ぎたい。
- (意見)研究発表の要旨を読むだけでは理解できない部分も多々あるので、できれば解説などを天気に掲載したらいいと思うが、気象台職員の発表でもその水準に達していないケースが多いので、気象台内の支部メンバーに細氷への投稿を促したい。
- (回答)査読ありとなるとマンパワー的に難しいので、査読なしの記事・解説という事であれば、大いに気軽に出版してもらいたい。
- (意見)可能であればパワーポイントなども掲載したほうがいい。
- (回答)パワーポイント掲載はいいが、最終的にPDFになるので、データ変換をしてから送付するようにしてほしい。
- ページ数の問題があるので、掲載の場合は書式をある程度決めたい。(掲載枚数)
- パワーポイントに関しては、作業が多くなりそうなので要検討。
- 解説は役員に限らなくてもいい。

4. 平成27年度支部総会次第について

- 次第は例年通りだが、議長は吉森幹事。事業計画と収支予算案を議事として上程し、その後は報告となる。予定は40分ほど。

5. その他

- 現時点で第1回支部研究発表会の申し込みは0なので、これから積極的に広報していく。
- 2年後の全国大会は4日間実施することで決定。
- 会場は北大学術交流会館とクラーク会館を使用。会期は平成29年10月30日~11月2日まで。(準備は10月29日から行う)
- 講演会場は3会場の予定、各種会合があるので小部屋も使用する。交流会館は全館貸し切りとなっている。

細氷61号 2015 第1回支部理事会報告

- 学会の規模が大きくなってきたので、この会場使用で行かざるを得ない。
- 会期が4日間となったので、会場のマネジメントにも影響がある。
- 準備業務は外注も含めて今後検討したい。

(全国理事について)

- 現在は全国理事という概念はないが、全国の理事会メンバーに入っている方は支部の理事会にも加わっていただき、支部長会議以外でも情報が得られるようにしたい。

(全国大会業務について)

- 会場は抑えたので次は実行委員会を立ち上げることになるが、会期の1年半前が通常なので、稼働するのは平成28年初夏くらいと想定される。
- 支部の役員でやれる範囲の業務を分担して行い、外注もうまく使う。
- 札幌の大会までは中身は特に変更しない。

(理事会終了)